



入学おめでとう

校長 鈴木 弘

新入生の皆さん、入学おめでとう。本日の入学式は、二〇〇〇年に中高六年制の立教池袋中学校・高等学校に生まれ変わったから第一三回目の入学式になります。また、本校の前身である立教中学校の一九七七年（明治三〇年）の第一回の入学式から数えると、君たちは一五回めの新入生となります。因みに中学校の卒業生は昨年度までで、二万人を越えました。

本校では、学校生活の基本に祈りを置き、礼拝を大切に、キリスト教や聖書の勉強を重視しています。そして毎日の学校生活の中で、自由を尊重しながら、節度と寛容、敬愛と謙譲、秩序とマナー、そして感謝を持って生きられる生徒を育てることに力を注ぎます。そのために、立教学院一貫連携教育による立教学院各校共通の、次の二つの教育目標を目指しています。

立教学院は、アメリカ聖公会より宣教師として派遣されたチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって創立されました。江戸幕府が鎖国政策を捨てた間もなく、国内が政情不安の中、当時三〇歳の若き外国人宣教師ウィリアムズ主教は、福音の伝道という強い信念を持って、長崎に上陸されました。そして明治に入り、ウィリアムズ主教は築地の外国人居留地の一角（現在の聖路加国際病院所在地）に「セントポールズ・スクール（立教学校）」と呼ばれる私塾を開かれました。当時わずか八名で出発した聖書と英語を教える、この一私塾が今日の私たちの立教学院の原点です。一八七四年（明治七年）のことです。従って、今年度は立教学院創立一三八周年の年になります。

一つは「テーマを持って真理を探究する力」、つまり、神様から自分と与えられた力を自ら発見し、これを伸ばしてより広い視野のもとに判断する力を養い、強い意志をもって真理を探究する人間の育成を目指します。二つめは、「共に生きる力」、つまり、互いに理解し合い、自己本位でなく、共に助け合って、広く国際社会にも目を向け、共同生活を豊かにすることができ、人間の育成を目指します。

かつての立教中学校という名を、「立教学院一貫連携教育」を具現するために立教池袋中学校・高等学校と改め、中高六年制の学校として新たにスタートしました。本校は君たち新入生を迎え、また新しい歴史のページが開かれようとしています。教職員一同、君たちと共に実りの多い学校生活と、築き上げて行きたいと思えます。

さて、新入生の君たちにとって、いよいよ中学校生活が始まります。君たちも初めが肝心です。君たちも、入学にあたり、次の三つのことを、ぜひ心に留めて欲しいと思います。一つは、まず自分の夢や目標をハッキリと持つて欲しいと言うことです。自分の夢や目標を、毎日の生活の中で、しっかりと持ち続けることは、とても大切

「向上心」と「隣人愛」

中一組 主任より

新入生諸君に期待したいこと。それは「向上心」である。自分を高めるために進んで学習、部活、委員会などこれだけではない。重要なことである。それを示す聖書のことばは、「たとい、あなたがたの知識に通じていようとしても、愛がなければ、無に等しい。」（これを君たちに当てはめるとどうなるか。部活や委員会が活躍しても、愛がないならば、価値打ちがないう事になるのではないかと。たまたま隣に居合わせたい人とも思いやる心を養って欲しい。これを「隣人愛」という言葉として君たちに贈りたい。君たちにはこの学校で自分を鍛え、得た力を人のために使え、多くの人を感謝されるような生活を作って欲しい。感謝されれば嬉しい。自信がつけられる。君たちは自分の生きている価値を見いだせるのではないだろうか。）
(二組 重原康秀)

新入生へ

出会いは宝

入学おめでとう。皆さんを心から歓迎いたします。そして昨日まで見ず知らずの我々が今日ここに集うことができた恵みに感謝したいと思います。さて、君達はどうな希望を持って入学してきたのでしょうか。一人一人は別々の夢。けれど、それを実現できるように互いに手助けできるといいですね。中学一年生というのは無限の可能性と不可能性を秘めた時期。そして、一緒に失敗できる仲間を作れる時です。失敗を恐れず、思い切り心・技・体を鍛え、成長して欲しいと思っています。「何事も時はあります。天の下の出来事はすべて定められた時がある。」（コヘレトの言葉、第三章一節）
(二組 大塚稔夫)

今日、みなさんとはどんな人との出会いがあるのか、楽しみに立教池袋の門をくぐったことでしょうか。ご存じのとおり、立教池袋は私立の学校ですから、様々な所から入学者が集まります。日本全国に星の数ほどある学校の中から、この出会いがあるわけです。この出会いって、結構運命的なものだと思いませんか。私はいつもこの出会いを大切にしたいと思っています。是非、多くの人と出会い、そしてその出会いを大切にしてください。大きな人の輪を築いてくれることを願っています。
入学おめでとう。
(三組 藤本 勉)

高一組 主任より

高校時代

高校一年の冬だった。部活中、爪先と膝が違う方向を向いた瞬間、左膝が「ブチッ」といった。僕は鮮明に覚えている。「左膝前十字靭帯断裂」医師からバスケットは無理だと言われ、泣いてしまった。部活はおろか学校にも行きたくなかった。高校生活は苦しかった。高校生に戻りたい、なんて思ったこともない。戻りたくもなかった。でも、怪我なく順風満帆に過ぎていたら、きっと大学でバスケットは続けないなかつただろう。楽ではない。悶々とする。きっと高校時代とは違う。何かを得るときなのだ。さあ新たな舞台の幕開けだ。
(一組 市橋祐介)

前へ前へ

新入生の皆様、入学おめでとう。皆さん。まさに今、君達は高等学校という名の大きな大きな舞台に立つたわけであり、一人一人がどのような姿勢を見せてくれるのか、今から楽しみでなりません。さて、これからの三年間を有意義なものにするためには、義務教育で培ってきた「基礎」を活用し、更に「自分らしさ」を求めて、前へ前へと突き進んでいく積極的な姿勢が大切で、なんとなく勉強し、なんとなく部活に入り、なんとなく卒業。そんな寂しい三年間にはならないことを願っています。何をやるにしても「とことん」走り抜けて下さい。君達が思っている以上にこの三年間は早く過ぎていきます。
(二組 古賀賢之)

進むべき道標

入学おめでとう。皆さん。これから始まる高校生活に対する期待や不安を抱いていることと思います。それは、未来への不確実性や予測不能性からくる心的状態なのではないでしょうか。学校生活が始まると、物理的/身体的な行為と相互作用的な出来事が交差/連鎖してゆくことで、時間が経つにつれて、余裕がある時期に、「自省」して、この時期に、必要かもしれない。そのようにして、長期的なヴィジョンを構想して、現実生活で困難に直面しても、大きな方向性を見失わず軌道修正できるし、日常的な情性に流れる浅薄な認識を再帰的に改めることができるでしょう。
(三組 綾部保志)

中学新入生のために —心がけて欲しいこと—

小学校時代とちがって友関係も広がります。放課後のクラブ活動、生徒会活動などで下校の時間帯も変わり、また、授業科目の増加で、家庭での予習、復習の量も増え、そのための時間も必要になってきます。これまでの生活のリズムを、早く中学校生活のリズムに切り替えなければなりません。この切り替えがスムーズにいかないと、遅刻、忘れもの、授業態度、そして持ち物や服装に影響が現れてきます。

ご家庭におかれましては、ご子息のきちんとした生活習慣の確立にご配慮下さるようお願い致します。しっかりと生活習慣の確立があって、はじめて真の心身の成長と学習の向上がのぞめるということです。これは本人の自覚がなければなりません。特に、次の点でご家庭でも協力下さい。

① **意欲的・積極的な生活**
自分なりのしっかりと目標を持ち、毎日を生きたりと意欲を持って生活し、だかららしい無気力な生活におちいらないように!!

② **規則正しい生活習慣**
新しい中学校生活に慣れるまでは疲れやすいものです。早寝早起きを心掛け、健康管理に気をつけ、遅刻・欠席をなくしましょう。また、家庭学習の習慣も身につけるようにして下さい。何事もスタートが肝心です。

③ **何事にも集中力を遊びと勉強の「けじめ」が大切です。貴重な時間を最大限有効に使う工夫をしましょう。特に授業に対する集中力を!!**

④ 忘れ物防止のために

本校では、各種の提出物が多いので、教具教材もちらんのこと、提出物等については期限をしっかりと守って下さい。メモ帳を一冊用意して、整理のメモをとる習慣を身につけて下さい。約束を守ることは生活の基本です。

⑤ 友人を大切に

自分のわがままを抑え、困っている人や弱い立場にある人に優しい思いやりを持ち、友人を大切にするには、自分の学校生活を楽しくする原動力になります。

⑥ 学校生活を積極的に

充実した学校生活は、学習活動、クラブ活動、生徒会活動のバランスによって成り立ちます。特性、適性を十分考え、自分の意志で決定し、積極的に参加したいものです。この項については他の場で詳しい説明がありますので、参考にして下さい。

⑦ 「朝の読書」の習慣を

読書は心の糧。と昔から言われています。一年生では、朝の八時一〇分からは、二〇分まで、クラスにおいて「朝の読書」を実施しています。図書館や先生方から推薦されたよい本を自分からすすんで読んでいきましょう。忙しい朝の十分間をぜひ、「心の糧」の時間としてください。

⑧ 家庭での役割も

中学生になったのを機会に、今まで親に頼っていたことを自分の仕事に切り替え、家族の一員としての立場を自覚し、自らの責任に

おいて、その役割をしっかりと果たして下さい。自分のことを自分で行う身辺的な自立のできないものは、人格的な自立もできないものです。

⑨ 学校生活の心得

学校の秩序を維持するためにいろいろな規則があります。新入生諸君はルールを守って、楽しい学校生活を送りたいものです。(別紙のプリントをよく読んで下さい。)

【学校時】

始業	8:20
学活	8:20~8:30
1	8:30~9:20
2	9:30~10:20 (モーニングブレイク)
3	10:35~11:25
4	11:35~12:25 (昼休み)
5	13:10~14:00
6	14:10~15:00

は八時です。
※土曜日は四時間目終了後、昼食・学活を行い、終業となります。
※下校時刻は、土曜日を含め、一七時五〇分です。

【教科担任制】

教科	時数	担当
国語	4	永田 山口(啓・石田)
社会	3	重原
数学	4	松本
理科	3	大塚
音楽	1	西澤・村林
美術	1	長谷川
保健	3	古賀(賢)
技術	2	山口(弘)
家庭		藤本(勉)
英語	7	藤本(麻)
聖書	1	菊池・Schaefer
礼拝	1	市原・鈴木(利)
学活	1	組主任

中学校では、教科によって先生が変わります。時間割は、上記が科目と担当の先生です。
選修教科(三時間)については、後日プリントで詳しく説明します。

【弁当】

中学校では給食がありませんので、必ずお弁当を持参して下さい。なおカフェテリアでは、パンや牛乳、おにぎりなどを販売していますが、これはあくまで、弁当を忘れたり、持参できなかったときの便宜的処置です。育ち盛りの中学生には、栄養の点から考えても、手作りのお弁当が必要だというのが、本校の方針です。もし忘れの場合には、午前中の休み時間のうちに、カフェテリアで代金を払って購入することになっております。

【欠席の場合】

朝八時(八時一〇分)まで(水曜日は十分程早め)に、までの間に学年の先生に連絡して下さい。
職員室直通の電話番号は東京〇三
※三九八五二七三
(中一・中二)
三九八五二七四
(中三・高一)
三九八五二七五
(高二・高三)

【欠席届】

学校を欠席した人は、学校所定の欠席届を担任に提出すること。届には、学年・組・番号・氏名と欠席理由・月日を記入すること。長期にわたる場合は(体育の見学も)、医師の診断書を提出してもらうこともあります。



保健室だより

▽開設時間—八時—十七時五〇分(土曜日は一三時二〇分)。ただし、一二時二五分—一二時四〇分は緊急の場合のみ。
▽利用方法—具合の悪いところをはっきり言って指示に従うこと。また、処置を受けた人は必ず名簿に記入すること。
▽体育見学届—具合が悪くて体育を見学する時は、届の用紙に記入し、保健体育担当の先生の許可を得ること。見学届の用紙は保健室にあります。
▽毎週水曜日の一〇時三〇分—一二時は、校医が来校します。

保護者会の御案内

前期の行事予定は、別紙プリントを参照して下さい。早速ですが、四月一日(土)午後二時三〇分より各組教室にて、第一回の組別保護者会を行います。ご出席下さい。

相談室から

ひとりでは悩まず相談しよう
立教池袋中高には、皆さんの心の整理や問題解決の援助をするために相談室があります。学習や進路のこと、家族や友人などの人間関係のこと、自分の健康や性格のことなど、どんなことでも相談に来てみて下さい。内容についての秘密は守られます。
相談申し込みは保健室で受け付けます。

入校期訓練

新入生諸君は七日(土)一日(水)までを、学校生活に慣れる期間として、授業を行わず、担任から学校生活の案内などを行います。詳細は別紙プリントを参照して下さい。



今月の聖句

婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

(マルコによる福音書 16章8節)

婦人たちがへの復活の知らせは、このように恐れを引き起こした。しかし、恐れの中に復活の生命はない。入院中のベッドの上から、「ハリストス復活!」に「実に復活!」の挨拶を送りたい。



- 二〇一一年度中学三年生受賞者
マカダム記念賞
田中 瑞基
東京都体育優良賞
若林 佑帆

学友会賞

団体

- 演劇部
(大木 宏祐・木下 陸)

数理研究部

- (市川 和憲)

ゴルフ部

- (小島 翔太)

水泳部

- (大瀧 智広・赤津 諒)

陸上競技部

- (瀧 貴弘)

精勤賞

一組

- 飯田 雄生・尾谷 昂大
河村 圭悟・小室 駿
鳴崎 皓介・鈴木 啓史
田嶋 一仁・椋木 佑輔

二組

- 西風 壹生・野矢 淳
吉田 雄亮

三組

- 市川 和憲・大瀧 智広
田中 大夢・服部 計希
林 優作・松原 礼門
山本 裕斗
新井 優志・伊藤 大貴
柿沼 慎・小島 翔太
鈴木 俊輝・豊増 慧介
前本 雄大・三井 智広
吉田 知祐・渡辺 大輝